

平成30年度 第1回リーベルネットワーク研修会報告書

1、開催日時：平成30年8月1日(水)13:30～16:30

2、開催場所：八女市文化会館

3、参加者（所属のみ）

あおぞら、赤坂園、あるくと十、おおぞら、ココkara、サポートセンター陽だまりの里、さんふらわあ、さら、城山学園、すいれん、すまいる、つくし園、デュナミス、ねんりん、悠、ひまわり、ふるさと、ほっぷ、ミライプラス、八女作業所、八女総合療育館、八女てらす、ゆうゆう、夢工房、夢と希望、よろず屋、若楠園、わーよか、岡山小学校、川崎小学校、黒木西小学校、上妻小学校、三河小学校、忠見小学校、立花小学校、筑南小学校、長峰小学校、福島小学校、星野小学校、八幡小学校、矢部小学校、下広川小学校、中広川小学校、黒木中学校、立花中学校、筑南中学校、西中学校、福島中学校、星野中学校、見崎中学校、南中学校、矢部中学校、上陽北浜学園、広川中学校、筑後特別支援学校、西日本短期大学付属高等学校、帝京大学、九州ダンボール(株)、南筑後保健福祉環境事務所、広川町福祉課、八女市家庭児童相談室、八女市社会福祉協議会、八女市学校教育課、八女市福祉課、八女市教育相談室、リーベル（66事業所、116名）

4、実施内容

テーマ：「家族への理解と関わり～よりよい関係を結ぶために～」

講師：^{くすのき}楠 ^{ひろゆき}凡之氏（北九州市立大学文学部人間関係学科 教授）



今回の研修会は、病気や障害をお持ちの当事者への支援だけではなく、その保護者への対応方法も学ぶことを目的としたものであった。参加者には障害福祉の関係機関だけでなく、多くの学校の先生方にも参加していただいた。

激しい学校不信や教師不信、被害意識・攻撃的な保護者など・・・なぜ保護者はそのように考えているのか、なぜそのような行動をとってしまうのか。これらの行動の裏には幼少期(成長過程)の過ごし方や家庭環境が大きく影響しており、保護者からの無理難題に正面から向き合うのではなく、幼少期や家庭環境など保護者が抱えている問題に向き合い理解して関わっていくことが大切という内容であった。

保護者自身の思いや感情であるにもかかわらず、「本人の思いや感情」と考えて行動してしまうため、本人の最善の利益に反している場合でも、保護者は本気で本人のためと思って行動してしまう。保護者が「本人の思いや感情」と「自分の思いや感情」を区別して考えられるかが本人の最善の利益に大きく影響してくる。そのためには、困難で不可能に近い場合もあるが、誰か(支援者)が保護者の思いを受け止め理解していく必要があることを学んだ。

研修会後のアンケートには、「保護者の言動への理解、対応に非常に役に立つと思う」「現場の中で保護者への対応の難しさを日々感じていたが、今回の研修で方向性が見えてきそうだ」「クレーマーと言われる保護者を煩わしいと感じていたが、考え方が変わった」など、今後の支援に役立つことを多く学ぶことができた研修会であった。

